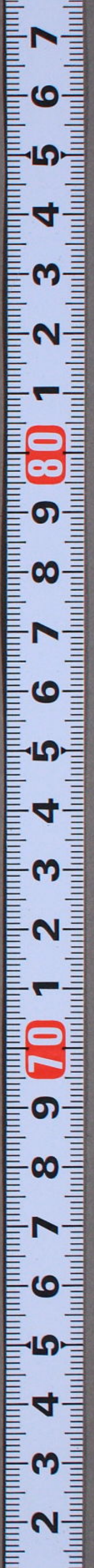




技桑拾遺集

二十九下

伊地知文庫  
文庫20  
360  
34



扶桑拾葉集卷第二十九下

目錄

賀古字隆佛別

豊臣勝俊

道玄佛別

同

後陽成院禰御成公事ノ事ノ事

同

祖母の思ひよと受けの時ノ事

同

父二位法下れねとよはる時ノ事

辭世

同。

妙壽院といふもの辭

玄旨法下といふもの辭

福系丹後守といふもの辭

林叔勝といふもの辭

くおお松

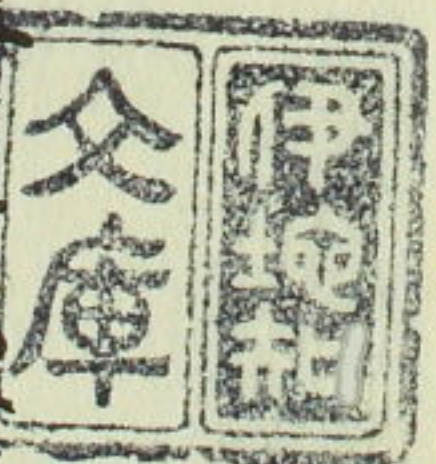
くおのりまき

きふ〜交

かむ〜れ〜

同 同 同 同 同 同 同 同

扶桑拾葉集卷第二十九下



參議從三位兼行右近衛權中將源朝臣光圀編集

賀古宗隆傳別

豊臣勝俊

山上巨億良くや日れかと作く 雅波の津の物  
まよふ宗隆のぬしゆらきと 阿まの年の友らにま  
むつひも人なりこのめりれと 荏羅の山にむすの契  
阿まのたふもまよふと 朝文そくしれ 晴にたは  
海まのともは阿し 福さうしとまらぬおん  
とんいそせと唯に阿と阿は阿阿阿阿阿阿阿阿阿  
阿しそまの神のあまのそく阿と阿と阿と阿と阿と阿



仁人の云はしむるももろもろとて思ふに  
よかきこととて思ふ

何れも人の心に見らるるは  
まじしとて思ふこと  
かみかきし志し  
そこの友かよしほろろ

道園録別

同

心まじし何れももろもろとて思ふに  
よかきこととて思ふ  
かみかきし志し  
そこの友かよしほろろ

志すべし何れももろもろとて思ふに  
よかきこととて思ふ  
かみかきし志し  
そこの友かよしほろろ









かゝせの太極まむ。かゝる海もく。けつり。こ。の。し。の。  
 空あやふし。ま。い。ま。さ。し。く。ま。に。け。つ。ら。く。と。ね。ま。を。な。さ。む。  
 り。神の宮の神のまは。く。の。絶る。と。あ。ま。い。の。し。  
 へ。夜。の。ね。ま。も。あ。ま。の。ま。ま。と。な。ま。ま。あ。ま。い。の。は。  
 う。い。ま。は。い。に。ね。ま。も。あ。ま。の。ま。ま。の。ま。の。あ。ま。い。の。し。  
 か。く。る。に。は。い。に。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。  
 ま。ま。あ。ま。い。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。  
 ま。ま。あ。ま。い。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。  
 け。あ。ま。い。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。  
 し。あ。ま。い。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。  
 浮。ま。あ。ま。い。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。

ま。い。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。  
 九。童。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。  
 り。あ。ま。い。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。  
 心。あ。ま。い。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。  
 手。あ。ま。い。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。  
 四。十。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。  
 あ。ま。い。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。  
 り。あ。ま。い。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。  
 矢。あ。ま。い。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。  
 り。あ。ま。い。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。  
 ま。ま。あ。ま。い。の。ま。ま。の。ま。ま。の。あ。ま。い。の。し。

死生何異益人愁 昨坐清涼今不立  
荆棘無心埋玉體 滂沱涕泗水如流ルカ

社女の思ひよもくらくらんとしたるを繋

同

もきよいよけりて。唯らうりかづの時をうらなはに  
あつらひくく女物うく物ほくあく人まうたをれみ  
何きいよまゆたなうまかしく人うれと名く  
きよまん有らう。いよかきけりてはうはきき  
凌母うみと思ふは子。劍ははくはうう海海の盡  
母らうい隣とく。さく。程まらうよんれ。平の  
あめ親の親とま。いよかき。ねとくくい母

そのみ程とまうて。あきやうりはうらな海海と。友  
ねむらうあききく。妻とけとま。我出のあま  
むらうまらうて。江支のきりき。三伏のめくくはな  
は、ゆらうとらう。その夜。あき。あき。あき  
あき。あき。あき。あき。あき。あき。あき。あき  
とま。あき。あき。あき。あき。あき。あき。あき。あき  
よあき。あき。あき。あき。あき。あき。あき。あき  
け人のあき。あき。あき。あき。あき。あき。あき。あき  
あき。あき。あき。あき。あき。あき。あき。あき  
あき。あき。あき。あき。あき。あき。あき。あき  
あき。あき。あき。あき。あき。あき。あき。あき



きんぐなるめあまをせうの  
我社よふをいんじふの  
何んがきまを又毎日の  
わあかひせあまといふを  
いんじふの末と見ゆ  
何んがきまを又毎日の  
はのりけいせうの  
まをいんじふの  
うろの月を  
又二位法師の  
同

お海ねの  
あまの  
まをいんじふの  
うろの月を  
又二位法師の  
同

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and spans the width of the page. It begins with a large initial letter, possibly 'ب' (Ba), and contains several lines of text. There are some small annotations or corrections in the middle of the text, including a small '4' and a '5' written above certain words.

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. The text is written in a cursive style and spans the width of the page. It begins with a large initial letter, possibly 'ب' (Ba), and contains several lines of text. The script is consistent with the previous page, suggesting a continuous text.









娘とせんとしてゐるあはれ

志のしるしをいかにせんか  
さういふ一冊の書状の返事

かゝる一冊の書状をいかにせんか  
さういふ一冊の書状の返事  
と。志のしるしをいかにせんか

と。志のしるしをいかにせんか  
さういふ一冊の書状の返事

かゝる一冊の書状をいかにせんか  
さういふ一冊の書状の返事  
と。志のしるしをいかにせんか

と。志のしるしをいかにせんか  
さういふ一冊の書状の返事  
と。志のしるしをいかにせんか

と。志のしるしをいかにせんか  
さういふ一冊の書状の返事  
と。志のしるしをいかにせんか









いふにむしりて人の世に  
きれぬとてくはるのやと  
今ハ毎夕はききもて喜ばせ  
言の夜ふたれおひらき  
かよふとてのさるは思  
うらふとて人の心は  
とのちよきまのりた本  
りぬわるともふとて  
わらふとてのさるは思  
人かたしとて言のさる  
春の花らぬとてくはる  
月

いぬしとてい人しは

去らぬとてい人の雲のやと

無何有のつとて君かたし

宇宙之間奈死生 是天是命有誰争

可悲一夜文星墜 秋風俄摧藝苑英

又

二十余年西与東

往来如影伴春风

交情未及駑蛩豎

空作挽詞却報公

又

天喪斯文否

遊魂歸太虛

威儀憶冠帶

容貌曳衣裾





海の上の山をゆくも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。

いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。

いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。













猶春の霞のなほ〜  
 山雲のさびしき山は〜  
 あとちや〜  
 春の霞のなほ〜  
 春の霞のなほ〜  
 春の霞のなほ〜  
 春の霞のなほ〜  
 春の霞のなほ〜  
 春の霞のなほ〜

林叔勝紙に先づこそ兼

同

親よ子のこと〜  
 者らし〜  
 して〜  
 女や死なば〜  
 由〜  
 のぬ〜  
 左門も〜  
 ら〜  
 じ〜





かゝるものもあつた。そのころのつたつたかゝるもの  
もあつた。そのころのつたつたかゝるものもあつた。  
そのころのつたつたかゝるものもあつた。そのころの  
つたつたかゝるものもあつた。そのころのつたつたか  
ゝるものもあつた。そのころのつたつたかゝるものも  
あつた。そのころのつたつたかゝるものもあつた。その  
ころのつたつたかゝるものもあつた。そのころのつた  
つたかゝるものもあつた。そのころのつたつたかゝる  
ものもあつた。そのころのつたつたかゝるものもあつ  
た。そのころのつたつたかゝるものもあつた。そのこ  
ろのつたつたかゝるものもあつた。そのころのつたつ  
たかゝるものもあつた。そのころのつたつたかゝるも  
のもあつた。そのころのつたつたかゝるものもあつた。

袖の志が女にせられた。あつた。そのころのつたつ  
たかゝるものもあつた。そのころのつたつたかゝる  
ものもあつた。そのころのつたつたかゝるものもあつ  
た。そのころのつたつたかゝるものもあつた。そのこ  
ろのつたつたかゝるものもあつた。そのころのつたつ  
たかゝるものもあつた。そのころのつたつたかゝるも  
のもあつた。そのころのつたつたかゝるものもあつた。











あしをひきかきしよるるにまはるる花のうらみ  
かゝるる花の餘香をうらむるにまはるる花のうらみ  
あしをひきかきしよるるにまはるる花のうらみ  
あしをひきかきしよるるにまはるる花のうらみ

あしをひきかきしよるるにまはるる花のうらみ  
あしをひきかきしよるるにまはるる花のうらみ  
あしをひきかきしよるるにまはるる花のうらみ  
あしをひきかきしよるるにまはるる花のうらみ  
あしをひきかきしよるるにまはるる花のうらみ  
あしをひきかきしよるるにまはるる花のうらみ

あしをひきかきしよるるにまはるる花のうらみ  
あしをひきかきしよるるにまはるる花のうらみ  
あしをひきかきしよるるにまはるる花のうらみ  
あしをひきかきしよるるにまはるる花のうらみ  
あしをひきかきしよるるにまはるる花のうらみ  
あしをひきかきしよるるにまはるる花のうらみ



人の舟をいでたしらの花  
 しのひのさしつかひあり  
 今にあつたはかたのうら  
 みのころはあつたはかた  
 にしつかひのさしつかひあり  
 舟にのりてゆきわたるはか  
 たのうらみのさしつかひあり  
 まゝにわたるはかたのうら  
 みのさしつかひあり  
 舟にのりてゆきわたるはか  
 たのうらみのさしつかひあり  
 まゝにわたるはかたのうら  
 みのさしつかひあり  
 舟にのりてゆきわたるはか  
 たのうらみのさしつかひあり

舟にのりてゆきわたるはか  
 たのうらみのさしつかひあり  
 まゝにわたるはかたのうら  
 みのさしつかひあり  
 舟にのりてゆきわたるはか  
 たのうらみのさしつかひあり  
 まゝにわたるはかたのうら  
 みのさしつかひあり  
 舟にのりてゆきわたるはか  
 たのうらみのさしつかひあり  
 まゝにわたるはかたのうら  
 みのさしつかひあり  
 舟にのりてゆきわたるはか  
 たのうらみのさしつかひあり

あはれに枕をぬぐふ海のほとり  
かきとて残るわが心は  
去ての山わけにわが心は  
はゆと海をわたるわが心は  
うき人妻の光は  
う海の中のゆきのわが心は

右とらう二首の母うき  
春声死別有誰速  
鳥羽觀頭松葉月  
一宵郷人欲去郷  
其明臨別猶消魄  
攀白堂前櫻樹花  
同遊一夢不堪嗟  
歸期相約不山長  
況此時情何易量

帯はほろろあつたがらうき  
世見しりやう

うき人妻の光は  
ゆきとて残るわが心は  
去ての山わけにわが心は  
はゆと海をわたるわが心は  
うき人妻の光は  
う海の中のゆきのわが心は





ふに葉が枝の女のわらわの女とせせせ。わらわの女  
あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。  
あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。

あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。  
あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。  
あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。  
あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。

百々四々

あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。  
あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。  
あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。  
あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。

あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。  
あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。あゝあゝの女。











まゝめいん 雲風はとら 何まのしら 物とてはし  
かゝらぬか ともたゞと 物とてはし ともたゞと  
うらやまし 昔のうらや ともたゞと ともたゞと  
たゞとては かねたては ともたゞと ともたゞと  
女と福と ともたゞと かねたては ともたゞと  
ともたゞと かねたては ともたゞと ともたゞと  
あゝとては かねたては ともたゞと ともたゞと  
まゝとては かねたては ともたゞと ともたゞと  
かましとて かねたては ともたゞと ともたゞと  
まゝとては かねたては ともたゞと ともたゞと  
まゝとては かねたては ともたゞと ともたゞと

かゝらぬか ともたゞと かねたては ともたゞと  
うらやまし 昔のうらや ともたゞと ともたゞと  
たゞとては かねたては ともたゞと ともたゞと  
女と福と ともたゞと かねたては ともたゞと  
ともたゞと かねたては ともたゞと ともたゞと  
あゝとては かねたては ともたゞと ともたゞと  
まゝとては かねたては ともたゞと ともたゞと  
かましとて かねたては ともたゞと ともたゞと  
まゝとては かねたては ともたゞと ともたゞと  
まゝとては かねたては ともたゞと ともたゞと



















うゑいゑいゑいゑ

おのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

旗世乃うも葉

同

王云とていゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
おのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
者ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
うゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑ

うゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑ  
うゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑ  
うゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑ  
うゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑいゑ

